


女性会館・情報センター調査



1989年12月

ポーラ文化研究所

●はじめに

……女性会館・情報センターの調査に当たって……

80年代に入ってから、女性たちはますます活動の範囲を広げつつあるが、その活動の一つの場となっているのが、全国に点在する婦人関連施設（公共、民間団体・私企業を問わず）といえる。その数は公共のものだけでも500を超えている（1987年版「婦人団体名簿」によると、全国の公私立を含む婦人関係施設は680を数える）。その中で、「働く婦人の家」や「農村婦人の家」（両方で約500ヶ所）は、主に貸室としての役割が大きく、情報機能を持たない施設と考えられるので、今回の調査の対象からはずした。対象施設としては「婦人（教育）会館」や「女性（婦人）情報センター」など婦人関連施設で情報機能を持っている所を中心に調査を行った。

90年代を目の前にして、最近ではそれぞれの女性会館や情報センターが「婦人」という括りだけでなく独自の特色を出そうとするなど、新しい動きも見られる。それらの施設がどんな情報を受発信し、どういった活動をしているかを中心に調査した。また、それぞれの施設がどんなところとネットワークを結んでいるかも興味深い問題として調べてみた。

<参考>

1987年版「婦人団体名簿」から
（財団法人 市川房枝記念会出版）

*調査期間は、1987（昭和62）年6～8月

全都道府県の婦人担当所管に依頼した調査にもとづき作成。働く婦人の家（労働省）、農村婦人の家（農林水産省）各設置概要なども参考にした。

なお、各都道府県別に、一般婦人会館、働く婦人の家、農村婦人の家に分類した。

一般婦人会館	169
働く婦人の家	204
農村婦人の家	307
合 計	680

A. 調査概要

1. 調査目的
全国に点在する女性会館・情報センターの基礎的情報を把握するためにアンケート調査を行った。
2. 調査対象
国立婦人教育会館が行った情報機能調査対象（昭和63年5～8月）の国内婦人関係施設50ヶ所。
図書室または資料室を持っている会館。
3. 調査方法
アンケート留置法
4. 調査期間
1989年8月～10月
5. 調査回答数
30ヶ所（回収率60%）

<内訳>運営団体

市立	10ヶ所
県立	7ヶ所
財団法人	7ヶ所
都立	1ヶ所

6. 図書蔵書数：
 1. 100冊未満…………… 0ヶ所
 2. 100～500冊未満 …… 4ヶ所
 3. 500～1000冊未満 …… 3ヶ所
 4. 1000～5000冊未満 …… 8ヶ所
 5. 5000冊以上 …… 12ヶ所
 - 不明 …… 3ヶ所

女性会館・情報センター調査結果の概要

ポーラ文化研究所

A. 調査結果の要旨

1. 「女性学」への関心が高く、情報の受発信ともに活発に行われている。
2. 他の情報センター、または民間女性団体との情報交換は主に機関誌を通して行われている。ただし、民間企業との交流は少ない。
3. 地域に密着した情報を収集、また、提供している。
4. これからのテーマには、女性のかかえる問題としての高齢化問題や、生涯学習があげられている。

B. 調査結果

- ① <MA>は選択肢がいくつもあって、その中からあてはまる回答をすべて選ぶ。
② ()の中の数字は回答数

1. 会館・センターの重点機能<MA>

1. 研修・教育 (23)
 2. 会議室などの施設提供 (22)
 3. 図書館として一般に広く利用してもらう (12)
 3. 外部との情報交流 (12)
 4. 調査・研究 (7)
- その他、相談機能をあげるところが3ヶ所あった。

2. 利用者や他の情報センターとの情報交換

1. はい (22)
 2. いいえ (8)
- * 「はい」と答えた方は具体的には、婦人団体、サークル・グループ代表者など利用者とイベント、講座を通しての交流が中心。
他の情報センターとは、近隣の婦人会館や国立婦人教育会館に、機関誌や刊行物の交換などがほとんどで、情報交換会等の直接の意見交換は1ヶ所のみだった。

3. 民間女性団体・グループとの情報交換

1. はい (20)
 2. いいえ (7)
- * 「はい」と答えた方は具体的には刊行物の交換や講座案内が中心。中には会館運営にも協力してもらったり、婦人団体登録制を実施している所もあった。

4. 民間企業(財団を含む)との情報交換

1. はい (8)
 2. いいえ (18)
- * 「はい」と答えた方は具体的には機関誌等の交換が中心。

5. 定期案内・機関誌の発行状況

1. はい (26)
 2. いいえ (3)
- * 「はい」と答えた方は具体的に“会館だより”、“センターだより”などの機関誌を出しているが、発行回数は月1回から年2~3回とまちまちである。

6. 「女性学」への関心

1. はい (28)
 2. いいえ (0)
- * 「はい」と答えた方の中での研修・講座の実施状況
1. 実施している (21)
 2. 実施していない (7)

* 最近行ったコース名

- 「女が変わる 時代が変わる 自分育てレッスンⅠ」
- 「女性のための法律講座」
- 「女性学へのアプローチ」
- 「フェミニズム文化論」
- 「文学にみる女性の生き方……女性の未来を考える」
- 「働く女性セミナー」
- 「女性学セミナー……新しい自分さがし」
- 「『いえ』から現代家族へ」
- 「今、主婦とはなにか」
- 「これからの女性の生涯学習」
- 「婦人大学-主婦からの自立・マスコミと女性」
- 「性の商品化のすすむ中で」
- 「女性のためのワークショップ」
- 「ティータイムサロン “あなた自立していますか”」

7. 受信（収集）情報＜MA＞

1. 家庭・家族、女性学、女子労働	(21)
2. 高齢化問題	(18)
3. 地域活動	(16)
4. ライフスタイル	(14)
5. 子供の教育	(13)
6. 性の問題	(11)
7. 育児	(10)
8. 食生活 8. 福祉	(9)
9. 趣味・教養、文化・芸術、消費・商品	(7)
10. 平和問題	(6)
11. 住まい	(5)
12. 人口問題、政治・法律	(4)
13. ファッション・装い、経済・産業	(3)

その他、行政資料や生涯学習に関する情報を収集。中でも、力を入れて収集している情報として「女性学」を挙げている所が9ヶ所ある。

* 情報受信（収集）方法

- 1. 本・調査資料の収集 (25)
- 1. 定期刊行物の収集 (25)
- 2. 研修・講座の参加（「女性学講座」なども含む） (16)
- 3. ビデオ・テープなどの視聴覚資料の収集 (7)

* ① 調査資料

- 1. 自由に使える範囲で買う (13)
- 2. 検討が必要な価格でも内容によっては買う (10)
- 3. なるべく無料のものを入手する (8)

* ② 研修・講座

- 1. なるべく無料のものを入手する (8)
- 2. 自由に使える範囲で買う (6)
- 3. 検討が必要な価格でも内容によっては買う (5)

* ③ ビデオ・テープなどの視聴覚資料

- 1. 検討が必要な価格でも内容によっては買う (7)
- 2. なるべく無料のものを入手する (4)
- 2. 自由に使える範囲で買う (4)

8. 発信（提供）情報＜MA＞

1. 女性学	(18)
2. 家庭・家族	(17)
3. 女子労働、高齢化問題、地域活動	(14)
4. ライフスタイル	(12)
5. 子供の教育	(10)
6. 性の問題	(9)
7. 育児	(8)
8. 福祉	(7)
9. 趣味・教養	(6)
10. 文化・芸術、平和問題	(5)
11. 食生活、住まい、消費・商品	(4)
12. 政治・法律	(3)
13. ファッション・装い、人口問題、経済・産業	(2)

ここでも、主な提供情報として「女性学」と答えている所が多い。（7ヶ所）

* 情報発信（提供）方法

- 1. 研修・講座の開催 (23)
- 2. 定期刊行物の発行 (19)
- 3. 本・調査資料の発行 (9)
- 4. ビデオ・テープなどの視聴覚資料の発行 (1)

* ① 調査資料

- 1. なるべく無料にする (17)
- 2. 自由に買える範囲の価格に設定する (3)
- 3. 内容によっては価格を高く設定する (0)

* ② 研修・講座

- 1. なるべく無料にする (21)
- 2. 自由に買える範囲の価格に設定する (5)
- 3. 内容によっては価格を高く設定する (1)

* ③ ビデオ・テープなどの視聴覚資料

- 1. なるべく無料にする (8)
- 2. 自由に買える範囲の価格に設定する (1)
- 3. 内容によっては価格を高く設定する (0)

9. 調査資料情報の希望＜MA＞

1. 女性学	(28)
2. 女子労働、高齢化問題	(21)
3. 家庭・家族	(20)
4. 地域活動	(17)
5. ライフスタイル	(16)
6. 性の問題	(12)
7. 子供の教育	(11)
8. 福祉	(10)
9. 育児、趣味・教養	(9)
10. 文化・芸術、消費・商品	(7)
11. 食生活、住まい、ファッション・装い、平和問題	(6)
12. 政治・法律	(5)
13. 経済・産業	(4)
14. 人口問題	(3)

受信・発信したい情報と同様、調査課題として「女性」をあげた所が13ヶ所もあった。

10. 女性に関する自主・協賛調査の実施状況

- 1. はい (10)
- 2. いいえ (18)

↓

* 「はい」と答えた方は具体的に

- 1. 自主調査 (9)

「女性の意識と実態調査」

「主婦の再就職」

「新しい仕事づくりの可能性」

「社会参加調査」

「若者たちは今、こう考える」

「青年婦人の学習と生活—その意識と行動」

「働く女性の意識調査」

「市内女性サークル活動調査」

「各催しの参加者アンケート」

- 2. 協賛調査 (2)

「生活と意識に関する調査」

「まんがで読む枕草子」参加者へのアンケート

1.1. 他情報センターや民間企業・女性団体間での研修・プロジェクトの実施状況

1. はい (8) 2. いいえ (20)

↓

*「はい」と答えた方は具体的には、資料提供や講座開催協力(どんなテーマがいいかなど)が中心で、女性団体とのものがほとんど。

1.2. 民間企業(財団を含む)に期待する役割

1. はい (20) 2. いいえ (5)

↓

*「はい」と答えた方は具体的に<MA>

1. 財政援助 (9)

1. 人材援助 (9)

2. 草の根レベルの活動支援 (8)

その他、専門的な情報を提供してほしいとの意見が3ヶ所からあった。

1.3. 21世紀の向けの方針・調査研究課題

1. 男女共同参加型社会の実現をめざす (6)

2. 高齢化社会に向けて (5)

3. 生涯学習 (4)

4. 情報化社会に向けて・情報のネットワーク化 (2)

4. 女性のネットワーク化 (2)

*その他、「ボランティアのあり方」「21世紀に生きる女性の役割」などあった。

1.4. 女性に関する情報の以外に、受発信する、またはしたい分野の情報・テーマ

「青年に関する情報」「教育」などがあげられているが、現段階では、女性に関する情報を第一に考えているためか具体的なテーマはあがっていない。

●おわりに

調査対象施設が少なく、それぞれに規模の差がかなりあるため、この調査結果をそのまま絶対的なものとはできないが、それなりの傾向は出ていると思う。

その傾向の一つとして、「女性学」への関心の高さがうかがえる。21世紀に向けての方針や課題に「男女共同参加型社会の実現」ということをあげている。しかし、時代と共に男性対女性というハードなフェミニズムから、さらに多様なさまざまな角度からのアプローチを研究しようとして「女性学」が注目され始めたのだろう。もちろん、新しい学問として女性問題と関わることはすべて「女性学」としてしまふところがある。しかしながら、これからの女性を調査・研究する場合に見逃せないテーマになるだろう。

また、女性会館・情報センター間、民間女性団体間の情報交換(ネットワーク化)は、機関誌の交換がほとんどで、積極的に直接意見交換するということは、なかなか余裕がないようだ。民間企業とのつながりに関しては、実際に交流をしているところは少ないものの、民間活力への期待は大きいものと考えられる。これは、女性問題全般だけでなく、これからのテーマである女性がかかえる「高齢化問題」や「生涯学習」にも大きな役割が期待されていると考える。

我が社も、女性に深くかかわる企業として、このような女性会館・情報センターの動きにいろいろな形で関わっていくのが、これからますます重要になってくるだろう。このレポートが、その手がかりとなれば幸いである。